

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・円安や株高の影響で消費が上向いてきており、消費税が上がる前の駆け込み需要も徐々に出てきている。	
		商店街（代表者）	お客様の様子	・天候に左右される日が続いているが、気温のかなり低い日が続いたため、今前半から半ばにかけて冬物がかなり消化でき、特に単価の高いコートが売れ続けた。また、春物を探している客が多く、春物の動きも比較的早い。	
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・大雪による交通の寸断が多い中でも、前年売上をクリアしている。台湾、香港からの観光客に加えて、シンガポールやタイからも観光客が訪れるようになった。また、市内では大雪の影響で除雪の回数が増えており、建設業者の笑い声が聞こえるほどである。	
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・工事現場従業員の来店が増加している。	
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年は、地上デジタル放送への完全移行後にテレビの不振が続いていたが、ここへきて回復傾向にある。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数が増加しており、自社の販売は順調である。他業種でも受注量の増加がみられることから、やや良くなっている。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・周りの競合店も販売台数が増えてきており、暖かくなるにつれて、全体的に景気が上向いてきている。	
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注量が増加している。新年になってからも、前年末の予測を10%程度上回る状況が続いており、メーカーが今年の計画を上方修正する動きもみられる。	
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・クッションやマット、芳香剤等の車内用品の動きが前年よりも良い。客の車も新しい車両が目につくことが多く、買換えよりも新規購入が増えている。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・前年や前々年と比べると客が増えており、やや良くなっている。	
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・冬のイベントと中華圏の春節が重なったことから、今月の来客数は改善した。しかし、前月の反動で増えている部分もあり、3か月前に比べて本当に景気が良くなっているか判断に難しい面がある。	
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・大型イベントやスポーツ団体の宿泊客を効率良く取り込むことができた。	
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・3～4月の旅行商品に駆け込みでの依頼が目立つ。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・1月半ばに流水が接岸し、東京～女満別線の供給座席数が増えたこともあり、2月の流水観光が好調である。また、前年に続き、春の甲子園に当地区の高校が出場することで、地域に明るい話題を提供している。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・2月は例年より雪が多く、寒い日も多かった。天候の影響もあるが、雪まつりなどのイベントに前年よりも多くの人を訪れているため、タクシー1台当たりの売上も前年より5%程度増えている。	
		美容室（経営者）	販売量の動き	・前年12月から前年比5%増の売上が持続しており、今月も同じような勢いが続いている。客の来店周期も若干短くなっている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の数が増加傾向にあるなど、客が活発に動いている。このような状況の中、分譲マンションの販売戸数も順調に伸びている。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が減っている。例年にない寒さと雪が要因となっている。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は例年にない豪雪の影響で、高齢者が多く来街する商店街にとっては来街者が少なくなっている。また、観光客も減少している。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・客の中でも景気が上向いていると下がっていると判断が付かない状況にある。
	商店街（代表者）		来客数の動き	・スケート等の大会及び合宿が組まれていないため、当地への来街者はビジネスを除きほぼゼロの状態である。そのため、交通、宿泊、土産等の売上は伸びていない。また、円安及び株高の影響で景気が上向くとの希望も聞かれるが、農産物等の輸出時期にはまだ早い一方で、寒冷地である当地の実生活は原油価格等の高騰により厳しくなっており、地域住民の足も商店街から遠のいている。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・中国人客は相変わらず減っている。その代わり、流水が早く来たことで日本人の来客数は若干増加している。売上は前年の80%程度である。
商店街（代表者）	お客様の様子	・景気の高揚感があるが、円安が進み、資材関係が値上がりしたため、納入単価や資材の値上げ要請があり、難しい状況にある。特に北海道は大雪の影響で客が家から出ようとしないため、消費への影響は多大である。
一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・ここ数か月、販売量がより不振の傾向にあるが、前月からは客単価も非常に低下してきており、より安い商品にシフトする傾向が顕著に表れている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・冬物のコート、ジャケット、ニット、パンツといった商材の販売量が前年実績を10%以上上回っている。例年であれば、2月下旬から春物の動きも出てくるが、今年は特に寒いこともあり、冬物バーゲンの動きが好調である。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年の悪天候によるマイナス分を今年のプラス要因として見込んでいたが、2月24日現在の売上は前年並みとなっている。前年よりも営業日数が1日減るため、2月の売上予測は前年比95%の見通しとなっている。買上客数も2月24日現在で前年比98.7%と前年割れが続いている。
百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・記録的な大雪と低温の影響で、来客数に大きな影響が出ている。また、客単価も低下傾向にあり、雪害の影響が収まるまで、しばらくこの傾向が続く。
百貨店（販売促進担当）	それ以外	・プレタブランドの値上げ直前の駆け込み需要が全体を押し上げているものの、特需的な要因を除いた全体的な基調に変化はない。円安にともない灯油やガソリンが値上がりしている影響で、客が余計なものを買い控えている。
百貨店（役員）	単価の動き	・全体としての景気が良くなっているとは感じないが、先日行われたホテル催事においてクレジット客の客単価が前年比130%を超えた。宝飾品や時計の高額品が売れていた。
スーパー（店長）	販売量の動き	・前月に引き続き販売量が前年比91%となっており、3か月前と比較しても数値は右肩下がりで足踏み状態にある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・世間で言われているような株高や円安の動きは、まだ現場まで波及してきていない。販売量の動きは相変わらずあまり良くない。
スーパー（企画担当）	単価の動き	・販促チラシを出す頻度が相変わらず高く、特売価格の強度にあまり変化のない中で、一部食料品の値上げが発表されている。ガソリン代、電気料金の値上げ等もあり、足元の動きは景気対策の効果よりも家計の圧迫要因の影響が大きい。
スーパー（役員）	来客数の動き	・2月に入り、過去数か月と異なり、来客数が前年比で1%前後上回っているが、商品単価や買上率が前年より低下しており、客単価が前年比で1.5%程度低下している。結果として、既存店ベースの2月の売上は前年比で1%前後のマイナスで終える見込みであり、厳しい状況に変わりはない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今年は大雪と低温の影響により、早朝と夜間の来客数が前年よりも2%減少している。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の話を聞いていても、客の様子を見ていても、あまり景気の回復は感じられず、停滞したままである。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・円安傾向にともなう暖房や灯油、ガソリン等の値上げが消費者の家計を圧迫している。売上も前年から減少している。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・2月は来客数、売上ともに前年を上回ることができなかった。客単価も前年から横ばいである。必要以外の商品には手を出さない傾向がある。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・時期的に人の動きは良くなってきているが、前年比較でみると3か月前と変わらない傾向で推移している。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・2月は営業日数も少なく、大雪等の天候の影響による来客数の減少は甚大であった。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高水準にあるため、客の節約志向が強い。

	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今年の雪の多さが大きな影響を及ぼしている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・2月上旬は外国人観光客の入込も良く順調であった。大雪の影響で交通機関が運休したことで苦戦した日もあったが、全体では売上が前年比でプラス10%とまずまずであった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年並みの売上となったが、夜は早い時間帯の予約客が中心で、フリー客が少なかった。飲食店のランチ価格帯は、地方よりも当地域の方が安い、当地域では価格競争が進み、安いメニューから先に売れている。また、札幌圏と十勝圏の飲食業界では、北海道フード特区事業の影響で加工食品に勢いがある。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・世論では新政権の経済政策などの景気対策の効果で回復の兆しがあるように報道されているが、現実の身の回りの動向に変わりはない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は相当天候に左右された。
	タクシー運転手	来客数の動き	・問い合わせの件数や注文数が前年並みの実績であった。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春の新商品に対する評価が一部商品を除き想定よりも低く、想定された客の新規獲得数に至っていない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期が続く中、気候の悪化やしけ、さらに流氷の影響もあり、継続して輸送量が減少している。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・変化がみられない。
やや悪くなっている	スーパー（役員）	来客数の動き	・2か月連続の大雪となり、客の外出が少なくなっている。特に商圏の広い大型店の売上が苦戦している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ここ3か月の動きとして、前年12月、1月については受注状況の改善がみられるなど、上向き傾向にあったが、今月に入って受注状況の動きが落ち着きを取り戻しており、前月よりも受注件数がやや減っている。現状では、まだはっきりとした上向き傾向とは言えない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・2月に入ってイベントが少なくなり、タクシーの売上も徐々に落ち込んできた。3か月前と比較すると、約1.3%の減少である。また、前年と比較しても、売上が約4.9%の減少であるため、やや悪くなっている。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前の利用客数は前年比で約130%、東日本大震災前の前々年比で約117%であった。一方、2月の利用客数は、25日現在で前年比こそ約127%となっているが、震災前の前々年比では約90%と減少している。
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・原油の値上がりによるダメージが大きい。飲食業界では、野菜の高騰による利益率の低下も響いてきている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末年始を過ぎ、例年2月は停滞期となる。
	悪くなっている	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き
企業動向関連	良好な状態	-	-
(北海道)	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅産業の活況につられて、家具インテリア産業も上向いている。
	建設業（従業員）	取引先の様子	・政権交代による公共事業増大の一環で、医療施設の耐震化に対する交付金支給に期待して、耐震診断や建て替えの引き合いが増えている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・スマートフォンへの乗換え需要に加えて、その他のシステム及びIT投資も今後の成長への期待含みで案件が増加傾向を示しており、景況感は回復しつつある。
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共事業関連の企業の受注状況が伸びている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・取引先である鉄工関連の仕事量は増加傾向にある。一般消耗品の販売量はまだ少なめだが、中型案件に相当する機械設備の納入が予想以上であったことから、景気は良くなっている。

変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・荷動きが悪い。	
	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・寒波や大雪の影響で生鮮品の値上がり、暖房費の高騰など、消費者の負担増で節約思考が強まっており、景況は良くない。また、為替の影響により、輸入製品、加工原料、燃油等の高騰が生じており、製造コストが上昇している。個人消費は商品価格の値上がりが先行していることから、消費は節約思考となり後退している。観光客の動向については、海外からの来訪が期待できる状況にある。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・東北向けの震災復興貨物の今年度分は3月で終了となるが、次年度も北海道より相当量のコンクリート製品の出荷が予定されている。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・当社の取扱量は、貨物の種類によりばらつきがみられるものの、全体では前年と変わらない。3か月前と比べると季節的に扱う量は落ちているが、例年と比較しても横ばいと言える。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の新増設やメガソーラーの建設で底堅い。各地の冬のイベントは、中国圏の春節と日程がほぼ重なったことから、東南アジア諸国の観光客でにぎわった。しかし、例年にない大雪と寒波で商店街の客足が鈍っているほか、流通業にもマイナスが生じている。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引並びに建築業関連ともに、一時的には上向き状態にあったが、最近に至っては停滞気味の状態が続いている。	
	司法書士	取引先の様子	・株高、円安など、景気に対する状況が変化しているが、期待だけであり、実際には変化がみられない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・円安による原油高騰の影響が深刻である。特に運送業者は燃料費の高騰を運賃に転嫁できず、物量が増えたとしても恩恵を受けづらい状況にある。業種にかかわらず原材料費、資材価格の高騰による停滞感否めない。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・2月は通常月より稼働日が少ないにもかかわらず、生産調整のために工場稼働を休止せざるを得ない日があり、受注量が落ち込んできている。	
	司法書士	取引先の様子	・例年であれば、春先から住宅建設のための土地の売買が増加する時期であるが、売買事例が減少したままである。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注案件の数は増えているようだが、条件は一向に改善されない。また、小規模のもの、短納期のものが多く、本格的な投資の気配はまだ感じられない。大手も景気が良くなりそうな気配を感じつつも、まだ様子見と言った感が否めない。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (北海道)	良く なっている			
	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人が増加傾向にある。求人の中でも正社員の求人が増えており、前月比で20%弱の増加を示している。また、政権交代の影響から、ここ10年ほど需要のなかった建設技術者の問い合わせが目立ってきた。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・スキルやクオリティのミスマッチはあるものの、求人広告入稿件数は前年比で12%の増加となり、求人が売手市場になってきつつある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・政権交代前は先行き不安感が強かったが、政権交代後の現在は先行きに対する期待感が強くなっており、前向きな印象を受ける。求人広告数についても前年と比較して増えている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・公共事業への期待感と大雪の影響からか、建設系と貨物輸送で求人の活発な状況が続いており、いつもの年よりも早い動きを感じる。コンビニやスーパー、衣料品など個人消費関連も堅調に推移している。福祉介護の募集はもう一段上がっており、ニーズの高さを感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で8.6%増加しており、36か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年比で11.0%増加しており、36か月連続で前年を上回った。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・雇用形態として直接雇用が増えている。ただし、給与水準がアップしているとは言い切れず、景気としては横ばいで推移している。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・前年と比較して募集広告の件数が258件増加しており、売上で35%の増加と大幅に増えた。毎月約7割のクライアントが入れ替わっており、幅広い裾野から出稿がある。特に地元企業からの出稿が増えており、医療、小売が売上の上位を占めた。また、公共事業投資を反映して、土建不動産、運輸の求人が前年比で8~9割増えている。
	職業安定所 (職員)	それ以外	・1月の管内の有効求人倍率は、0.62倍と前年を0.10ポイント上回り、管内としては高い水準となっている。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・1月の新規求人数は前年から9.6%の増加となった。新規求職者数は前年から0.5%の増加となった。月間有効求人倍率は0.73倍となり、前年の0.59倍を0.14ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人占める割合は48.6%と、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-